

まさお とうきち
政尾 藤吉 (1870~1921)



法律家。外交官。喜多郡大洲町(現、大洲市)出身。喜多学校(現、県立大洲高等学校)で英語に興味を持ち、上京して東京専門学校(現、早稲田大学)に入り、英語を学んだ。卒業後、広島で英語教師となるが、明治24(1891)年、私費留学生としてアメリカに渡り、バージニア州の弁護士資格を得た後にエール大学に入学、明治29(1896)年、日本人初の連邦政府弁護士の資格を取得してエール大学首席に選ばれ、翌年法学博士号が授与された。

帰国後、横浜の英字新聞・ジャパントイムズに迎えられ、主筆として活躍した。やがて彼の記事が小村寿太郎の目にとまり、明治30(1897)年、外務省からシャム国(現、タイ王国)政府法律顧問に委嘱されて同国に渡り、刑法や民商法などの起草を手がけた。シャム国の滞在は15年に及び、国王から全幅の信頼を置

かれ、王族待遇を与えられた。

大正2(1913)年に帰国した後は、衆議院議員となって国政に励み、大正9(1920)年、特命全権公使として再びシャム国に着任するが、翌年、脳溢血のためバンコクで没した。

略歴

- | | |
|------------------|--|
| 明治3(1870)年11月17日 | 喜多郡大洲町に生まれる。 |
| 明治22(1889)年 | 東京専門学校英語普通科を卒業 |
| 明治24(1891)年 | 私費留学生としてアメリカに渡る。 |
| 明治26(1893)年 | バンダビルト大学神学部を修了 |
| 明治28(1895)年 | バージニア州立大学を修了。同州の弁護士資格を取得 |
| 明治29(1896)年 | エール大学法学修士を取得、エール大学助手に採用
連邦政府弁護士免許を取得 |
| 明治30(1897)年 | エール大学より法学博士号が授与される。日本へ帰国
ジャパントイムズに入社、外務省の委嘱によりシャム国に赴任 |
| 明治31(1898)年 | シャム国刑法第一次草案を作成 |
| 明治36(1903)年 | 東京帝国大学法科大学より法学博士号が授与される。 |
| 明治38(1905)年 | シャム国王ラーマ5世より白象第三勲章を賜る。
チカー裁判所(最高裁)裁判官に就任 |
| 明治44(1911)年 | シャム国王ラーマ6世よりピヤー爵を受領、プレイヤー・マヒトーンマヌーパコーン・コーソンクンの欽賜名を賜る。 |
| 大正2(1913)年 | 腎臓を患い、帰国 |
| 大正4(1915)年 | 立憲政友会入党、第12回衆議院議員総選挙に喜多・上浮穴から当選 |
| 大正6(1917)年 | 衆議院特派議員団長として北米に派遣される。 |
| 大正8(1919)年 | 衆議院特派議員団長として東南アジアに派遣される。 |
| 大正9(1920)年 | シャム国特命全権公使(高等官二等)に任命される。 |
| 大正10(1921)年8月11日 | バンコクの公邸において脳溢血のため52歳で永眠。葬儀に国王ラーマ6世参列 |

(写真：『政尾藤吉追悼録』より)

〈関連図書〉

- ・政尾隆二郎『政尾藤吉追悼録』 1922年
- ・大洲市誌編纂会『大洲市誌』 大洲市 1996年
- ・香川孝三『政尾藤吉伝 - 法整備支援国際協力の先駆者 -』 信山社 2002年
- ・香川孝三『政尾藤吉伝補遺』『国際協力論集』 第15巻 第1号 2007年
- ・澄田恭一『大洲・内子を掘る』 アトラス出版 2007年

〈ゆかりのある場所〉…(P289, 104)